

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度分)

(宛先) 岡崎市長

令和 7年 4月 30日

団体名 共育サロン・まなびんパーク

代表者 尾竹 花保里

構成員 12 人 (※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的: 団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

本会は、子育て・人育てに関する活動を行うことにより、岡崎市内の養育者が抱えがちな問題に地域コミュニティ全体で自分ごととして取り組み、「みんなでまあるく子育て」することを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場 所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活 動 内 容
6、10、 1月に1回	中町にある 空き家 (個人宅)	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 50名程度	『ベビー用品譲渡会及びママ交流会』 団体の活動へ理解を寄せてくださる支援者 より空き家を借り、ベビー用品の譲渡を通 じて、助け合いのコミュニティの形成に寄 与した。
4、5、6、 7、9、 10、11、 1、2、 3月に1回	各地域 交流センター	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 140名程度	『はじめてのわらべうた ベビーマッサージ』 赤ちゃんとのマッサージを通して、親子間 のコミュニケーションについて学び、子育て についての話し合いの時間も持ち、養育 者コミュニティを広げた。
5、10、 2月に1回	各地域 交流センター	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 30名程度	『おやこdeのんびり食育サロン』 習いごとの中でも関心度の高い右脳教育を 通して、幼児教育について学び、子育てに ついての話し合いの時間も持ち、養育者コ ミュニティを広げた。
10月31日	図書館交流 プラザ りぶら	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	10名	『はじめての英語あそびサロン』 英語あそびを通して、親子間のコミュニ ケーションについて学び、子育てについて の話し合いの時間も持ち、養育者コミュニ ティを広げた。
9、10、 11、1、 3月に1回	各地域交流セ ンター	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民、ママ講師 本人	全体で 50名程度	『はじめて子育て予習室』 「ママ講師サポート事業」の一環として実 施。講師として自立する手助けをすること で、養育者の社会進出の機会を創出した。

10月13日	地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里	ゆきファミリーパークに来場された市民	体験された方で100名超	『はいはいレース』 「ゆきファミリーパーク」という地域交流センターでのイベントへ出展。普段サロンに参加しない方にも広く当団体を知ってもらうきっかけづくりとした。
11月16日	図書館交流プラザ・りぶら	おかざきこそだて会議に来場された市民	体験された方で30名程度	『スライムバッグワークショップ』 りぶらで開催された「おかざきこそだて会議」へ出展。普段サロンに参加しない方にも広く当団体を知ってもらうきっかけづくりとした。

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。＜ex. 自然環境＞

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

イベントに来てもらって子育て一般の悩みや養育者本人の困りごとのヒアリング、解決できそうな他団体や公共施設・機関の紹介などは直接的に受益されているものと思われるが、コロナ禍以降集客は減り続けているためその総数は減っている。しかし、広報をし続けること、また受益者がよく目にするSNSなどで広く周知していることは、実際に足を運ばなかったとしても、岡崎市にこういう団体ある、受け皿があって、タイミングが合えば受益することができるという気持ちを多くの市民に持たせることには成功していると思われるため、子育て支援への機運を高める一助をもたらしたと思っている。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5 (4) 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください

「ママ講師サポート事業」が6期目を迎えたが、今年度も1名のみのスタートであり、一旦次の希望者が出てくるまでは事業は見送ることになっている、昨年度に続き「おかざきこそだて会議」や「ゆきファミリーパーク」はかなりの来場者を迎えることができ、団体を知ってもらう良い機会になった。大型イベントの来場者は土日のためか、幼児～小学生を父親が連れてきて体験することが多いため、普段の弊団体が対象とする乳幼児よりは対象年齢を引き上げたワークショップを意識して活動することができた。

■2の回答にも書いたが、受益者の総数は減っているため、周知ができて、支援に繋げる部分がまだ思うような成果になっていないため、1つ下げた4と評価した。